

# 昆虫食倶楽部の奮闘 ～無茶してもがいて楽しむ～

○戸田 三津夫<sup>1, 2</sup>・夏目 恵介<sup>2</sup>

(1 静岡大学 工学部 2 昆虫食倶楽部)

## はじめに

私たち昆虫食倶楽部（浜松市）は、2011年からのアイガモ処理イベント、2014年の昆虫食イベントを経て、2015年に公開イベント「とって食べる」を開始、2016年にはミシシippアカミミガメ（以下、アカミミガメ）をとって食べるを開催、やがて食べきれない数があることから一般参加可能な「アカミミガメ防除」へと活動を広げ、中高生向け連続講座「ガチ！生物多様性塾」（以下、「ガチ！塾」）を展開している。今回はそのようになった経緯と「ガチ！塾」開催での奮闘について報告する。

## 「とって食べる」から「ミシシippアカミミガメ防除」へ

アイガモ（アヒルとマガモのF1交雑個体）の処理を浜松のアイガモ農家の方から依頼され、ヒトと生態系の接点の「食」を通して生物にアプローチし始めた。アイガモは家畜なので生態系との関わりが強いわけではないが、やがて、関心は浜松市周辺の生態系と侵略的外来生物へと向かった。佐鳴湖周辺にたくさんいたアカミミガメにも当然目が向く。フィールドの生物を食べてみたい、それなら防除すべき生物を捕獲して、ついでに食べるのが良いのではないかと、というわけで「とって食べる」と「侵略的外来生物防除」の合流。で、アカミミガメは食べられるのか、と発想が進むのにそう時間はかからなかった。「とって食べる」は、春の野草、初夏の侵略的外来生物（ウシガエル、ブルーギル、オオクチバス、アメリカザリガニ）、夏のセミ、秋のハゼ、トノサマバッタ、アカミミガメを主な対象として始まった。昆虫食倶楽部という名前だが、昆虫も、それ以外も、ゲテモノもそうでないものも分け隔てなく食べるのがポリシー。世に雑草という草がないように、ゲテモノという生物もない。相前後して生態工房の片岡さん、国立環境研究所の五箇さんたちにお願ひして講演会を開催。いよいよ、2017年頃から本格的に淡水ガメの調査を兼ねたアカミミガメの防除を始め、“食べきれないほど”を捕獲するようになる。ときどき食べられないオオブタクサ、アレチウリ、オオキンケイギク防除も行う。

## 「ガチ！塾」開塾へ

生物の捕獲や侵略的外来生物を食べる活動は楽しいし、ある種の達成感もある。アカミミガメ防除を始めた頃は水面のそこかしこに見られたアカミミガメの首がいまは目立たない。しかし、根絶の兆しはなく、果てしない活動が求められる予感もある。はたして私たちは何のためにこの活動をしているのか、侵略的外来生物といっても躊躇なく殺して良いのか、生態系は守られるのか、そもそも生物多様性とは何で、どうしてそれを守らなければならないか、また、どうやって守るかという思考の迷路にさしかかった。「しかし待てよ、これは安易に答えが出る問いではないし、そもそも解はない。よい思考テーマになるし、みんなで考えよう」ということで、2021年から無茶な「ガチ！塾」を開始した。フィールドワーク主体PBL（Project Based Learning）として、学校ができない学習機会の提供をめざした。「教える（教育）」ではなく「一緒に考える（学習）」をめざし、現場現物で体験して、意見交換して、最終的に各自がテーマを決めてプレゼンテーションする。なにより参加者（塾生）だけでなく、講師、企画者まで楽しくワクワクするイベントをめざして、その点ほうまくいっているが、もがいている。